

Magazine of Teikyo
Alternative Life

[フレア]
TAKE FREE

Flair



September 2011 / Autumn
Vol.
83
THE TEIKYO SELF

CONTENTS

02 This is my style.

こんな風に、暮らしています

12 Good Fellows.

やっぱり仲間が、一番です

14 Surprise Us.

先生が、教えてくれるコト

15 What's Up?

いま、何やってる?

16 Our Recommend!

みんなの、カルチャー

18 Flair Workshop

ワクワク企画が、満載です

22 Good Health.

やっぱり健康が、一番です

23 Notice Board.

大学からのお知らせです



特集

本をつくる。



TEIKYO



発行月：2011年9月（年4回発行） 発行：帝京大学本部大学PR推進室 〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 TEL 03-3964-4162 FAX 03-3964-9189 E-mail:post@med.teikyo-u.ac.jp
URL : http://www.feelteikyo.com/flair/ ご意見・ご要望をお待ちしております。郵送またはFAX、E-mailにてお寄せください。 © 帝京大学 2011 禁・無断転載



相模湖キャンパスにて

File:28

name: 山下菜南さん
 grade: 3
 hobby: ホルン
 class: 薬学部 薬学科

いつか小児科病棟でアンパンマンマーチを。

豊かな緑に囲まれた相模湖のキャンパスでは、週に2日は、管楽器の音色が聞こえてくる放課後がある。山下さんが部長を務めるウインドアンサンブル部（吹奏楽部）の活動だ。
 「来年4月に薬学部が板橋キャンパスに移転するので、今は引越して頭がいっぱいです。後輩たちの新しい練習場所も確保しなければなりません」

薬学部では3年の後半から専門分野に分かれていく。それに伴い、この秋で3年生は引退だ。「いつかみんなと病院でコンサートがきたいですね。小児科病棟でアンパンマンマーチを演奏して、子供たちを元気づけたい」

病院薬剤師をめざす山下さんは、学業でも部活でも癒しのハーモニーを調合中だ。



「今は学校の楽器を使っているけれど、いつかマイホルンが欲しい」。ラストコンサートに向けて特訓中。



This is my style.

こんな風に、暮らしています。

宇都宮キャンパスにて

File:27

name: 児玉 薫さん
 grade: 3
 hobby: 飛行機づくり
 class: 理工学部 航空宇宙工学科

確実に浮く機体を作るため週に6日は活動に参加。

大学入学後、友だちに連れられて見学した「スカイプロジェクト」の活動に魅了された児玉さん。「間近で翼を見たのは初めてで、感動したんです。これはやらないと損だと思いました」と楽しそうに話す。メインは年に一度、自作の飛行機で出場する「鳥人間コンテスト」。彼は今までの悔しい結果を払うべく部長に立候補し、週に6日は顔を出して精力的に活動している。

「今は、確実に浮く機体を作るのが目標。在学中に、何がなんでも実現させたいです」

最近は何に1度、テスト飛行も行い始めた。気温の低い時間帯の方が飛ばしやすいため、部員たちは午前4時に集まる。そんな苦勞も、機体が浮いた瞬間にすべて吹き飛ばのさう。



部の活動のために購入したパソコン。これで航空力学を使った計算をしたり、設計図を書いたりする。



永江さんが執筆するときは、今までに読んだ本がヒントになることも多い。「ゼロから生み出すことは難しい。たくさん読むことで、考える力も養われると思います」

特集

本をつくる。

時間を忘れるほど熱中してしまう小説や新しい情報にわくわくする雑誌など、いつも私たちに感動とときめきをくれる本。その1冊がつくれるまでには、実にたくさんさんの工程があり、こんなにも時間をかけて、真剣につくっている人たちがいました。今回の特集では、「つくる」「つくる」ことから、本の魅力をひも解いてゆきます。

Q

永江朗さん、本をつくる醍醐味って何ですか？

編集者として、ときには著者として、さまざまな本の制作現場をみつめてきたライター永江朗さんに、本をつくる面白さを教えてくださいました。

つくった本を通して、人と繋がるのも楽しい。

「つくってからの手に渡るまで、自分でプロデュースできるのが出版の面白ところ」と話すのは、ライターの永江朗さん。近年では、家庭でもパソコンを使ってデザインから印刷まで容易に行うことができるように。しかし誰でも本をつくるのが可能だからといって、ただつくるだけでは意味がない。「あくまでもつくったものを誰かに見せることが重要」と彼は強調する。

「インターネットに溢れている言説には、自分の思いをただストレートにぶつけたものが多いです。でも出版はパブリッシングとは、パブリック（公的）にモノを発表していくことだと思っんです。それは同時代に生

きている人に思いを伝えるということであり、ひいては後世に語り継がれるということでもあり。だから本をつくるときに一番大切なのは、人に伝えたいという気持ちではないでしょうか」。読み手に対して伝えたいことを形にしたもの、それが本であるとしたら、読んだ人から内容について反論を受けることもあるはずだ。永江さん曰く「だからこそ、覚悟も必要。しかし第三者に叩いてもらい、直すことでよくなるケースも多いんです」。作品がブラッシュアップされていく過程を見るのも、ひとつの楽しみといえるだろう。ゆえに、そんな本づくりとダイレクトに関わり合える出版業界はとても魅力的だと永江さんは話す。

「例えば出版社に入って編集職に就けば、入社3カ月目で一冊まるごとつくることも可能なんです。自分で企画を立てて、好きな著者やライターに原稿をお願いして、デザインしてもらいたいデザイナーと憧れのカメラマンをセッティングして……。そうしてできた本が全国の書店に並び、多くの人の元に届くわけですよ。他の仕事にはない喜びがありますよ」。とはいえ、すべての編集者がメガヒットを狙っているわけではない。シェアは少なくても、確実にニーズがあると思われる分野の本であれば出版することができるのもこの業界の特長だ。大小様々なスケールを選べるのも、面白い点といえるだろう。一方、著書を多数出版している著者の立場から永江さんは「自分の作品を媒介にして人と話ができるのも楽しい」とも。「本を書いて講演に呼ばれると、打ち上げて集まった人と本の話をお酒を呑むことも多いんです。ひとつのテーマでも違う見方をする人がいたり、自分が知らなかったエピソードを聞けたりするのは楽しいですね」。制作に携わった本は、いわば自分の分身のようなもの。ひとり歩きして様々な人と繋がりが、結果、新たな世界を広げてくれる。そんな、一種のコミュニケーションツールとしても機能しているのだ。



永江朗さん Akira Nagae
ライター、早稲田大学教授
北海道生まれ。法政大学文学部卒業。洋書店に約7年勤務後、雑誌編集を経てライターに。本や書店に関すること、社会事象など、幅広いテーマで執筆活動を行っている。早稲田大学文学学術院教授も兼任。



坂川栄治さん 装丁
編集担当の方にストーリーを伺い、たくさん読者の選んでもらうことを意識しながら、主に絵本の外側をデザインします。「わかりやすく、届きやすく」がモットーです。

塩見 亮さん 編集
作家さんと原稿の内容を詰め、ストーリーが完成したらイラストレーターさんに制作をお願いし、素材が揃ったらデザイナーさんにアイデアをいただきながら一冊の絵本にしています。

きむらゆういちさん 作家
日常生活の中で思いついたことを、2〜3年メモし続けてストーリーにしました。一巻完結のつもりでしたが、続きが読みたいというリクエストに応じて新たに執筆していたという流れです。

嵐の夜に出会ったオオカミとヤギ。お互いの姿が見えない暗闇で、天敵である両者が意気投合する。後日、再び会う約束をした彼ら。食う者と食われる者の関係である2匹の運命は？映画でも人気を博した名作。



絵本

きむらゆういち 作
あべ弘士 絵
『あいのよるに』
(講談社)

How to make...

物語に寄り添うようにイラストが描かれていく。
作家が書いたストーリーを編集者がチェックし、文章量や内容について話し合ったあと、編集者からイラストレーターに制作を発注。できあがったら装丁家にブックデザインをお願いし、数案の中から決定。その後印刷、納品。
●Staff: 作家、編集者、イラストレーター、装丁家、デザイナー

フリーペーパー

『TEIKYO PLUS』

(帝京大学八王子キャンパス
Free Paper学生編集部)

How to make...

自分の足で探した情報をまとめる面白さ。

スタッフ全員で企画を持ち寄り、編集長のもと企画を決定。その後担当者が取材相手やモデルをピックアップし、取材・撮影。ライターが執筆し、デザイナーが誌面をデザインしたら、大学のチェックを経て印刷、納品。
●Staff: 編集長、編集者、ライター、カメラマン、デザイナー、モデル



中川徹哉さん 編集長兼カメラマン
誌面づくり全体の統轄をしつつ、撮影、印刷のやり取りまで広く担当しています。執筆やデザイン、編集部員への指導も行います。



滝元英恵さん ライター
執筆と誌面全体の文章の推敲を担当しています。「OB・OG訪問」ページは帝京大学の卒業生へ取材をお願いするところから始めます。



葉山 亮さん デザイナー
誌面全体のデザインを担当しています。趣味を追求する学生を追った「趣味追求」ページの人選、取材、執筆も並行して行っています。



千葉美幸さん デザイナー
デザインに携わりながら、帝京大生の悩みを解決する「Must」というページを担当しています。今回は帝京大生のiPhoneオスメアプリを取材。



土方亜美さん アシスタントカメラマン
編集長である中川さんに教わりながら、カメラのアシスタントをしています。今後は、誌面づくりにも関わっていく予定です。



オープンキャンパスをお手伝いする学生スタッフが集まってつくられた「もっと帝京が好きになれる」フリーペーパー。リアルな学生の姿のほか、先生やOB・OGへのインタビューなど盛りだくさんの内容となっている。

雑誌

『AERA』
(朝日新聞出版)



中吊り広告の「1行コピー」でおなじみの、朝日新聞出版発行のビジュアル週刊誌。政治・経済からジェンダーまで、独自の切り口でニュースを解説。創刊以来続く坂田栄一郎氏による表紙写真のファンも多い。

How to make...

限られた時間で、どれだけ伝えられるかが勝負。

まずは企画を決定。おおよそ3週間前にその号の企画を固める。その後は各記者が担当記事の取材を進め、デザイナーやカメラマンと連携しながら誌面づくり。週刊誌の肝である見出しを考えるのは校了ギリギリの2時間ほど前。
●Staff: 編集長、副編集長、記者、カメラマン、デザイナー、校正者、広告営業



尾木和晴さん 編集長
大切なのは、こだわること。着眼点や目的を重視した誌面づくりを心がけています。そのためにも「なぜ?」と常に問いかけながら情報を集め、企画をつくっていきます。



伊東武彦さん 副編集長
今年の4月から「1行コピー」を担当しています。世の中の空気をコピーに反映させるために、毎朝の前日には必ず飲みに行って、世の中の空気を感じとるようにしています。



井上和典さん 編集部
AERAの編集部は3年目です。ウェブとの違いを出すためには、深く掘り下げるのが大切。そのためには、使えるツールは利用しつつ、情報を足でかせぐことが大切ですね。



相沢周史さん 広告営業
総合メディアグループとして、社内のリソースをいかに広告に活用するかが課題。例えばAERA、朝日新聞、asahi.comで合同企画を行うなど、より効果的なカタチを提案していきます。

ここが違う。本のつくり方いろいろ。

ひとえに本づくりといっても、つくり方や携わるスタッフはさまざま。縁の下の力持ちたちに制作秘話を伺いました。

小説

村上春樹 著
『1Q84』
(新潮社)

How to make...

小説は時間をかけて、言葉を紡ぎ、かたみにしていく。

著者からの原稿が仕上がると、「1Q84」は社内でも限られたスタッフのみが携わることに。作家がこの作品に託した世界を熟考しながら、校正と内容について推敲したり、装幀室とデザイナーを決めたりなど、半年をかけてじっくりと制作した。
●Staff: 著者、編集者、装幀家、校正者、営業



村上春樹氏の7年ぶりの書き下ろし長編小説。2009年に第1巻が発売され、現在第3巻まで刊行。ミリオンセラーに。1984年、2人の主人公が同じ組織の活動にそれぞれ巻き込まれながら、1Q84年の世界へと入り込んでいく。



鈴木 力さん 編集
村上さんから書き上がった原稿が届き、制作がスタート。著者、そして校正部、装幀部、宣伝部、営業部等のスタッフとの緊密な共同作業の中で、仕事が進んでいきます。



高橋千裕さん 装幀
著者と編集と相談しながら、本の厚さや装幀を決めます。今回は、内容が分からないような装幀にという要望から、文字のみでデザイン。核となった「Q」の文字は作字しています。



小山健秀さん 営業
今回は社内でも発売まで内容の非公開が徹底されました。僕も教えてもらえませんでしたから(笑)。何度も会議を開き、そこで決まった情報を順次広告に打っていました。

写真集

川島小鳥 著
『未来ちゃん』
(ナナロク社)

写真家の川島小鳥さんが、佐渡島に住む友人の娘さんを1年間撮り下ろして一冊にまとめた写真集。「未来ちゃん」とは彼女の名前ではなく、作品名。川島さんがイメージする「未来ちゃん」の世界が描かれている。



How to make...

編集者が「いい」と感じた作品を一冊にまとめる。

編集長と編集者が写真展に行き、写真家に写真集の発行を打診。その後写真家が1年間作品を撮りため、デザイナー、編集者と一緒に写真をセレクト。デザイナーが装丁をし、印刷、納品。発売日に向けて編集者が宣伝を行った。
●Staff: 写真家、編集長、編集者、デザイナー兼装丁家、モデル



村井光男さん 編集長
川島さんの場合は写真展で実際の写真を見て、「素晴らしい」と感じました。そういう風にもいいものを「いい」と判断し、出版できるかどうかのジャッジをする役割を担っています。



坂下実千子さん 編集
「未来ちゃんの写真集をつくりたい」と編集長にお願いして、川島さんにアポイントを取り、出版決定後は進行管理や打ち合わせ、宣伝などをすべて担当しました。



友田 亮さん 編集
ストーリーについて羽海野さんと打ち合わせをし、漫画のラフであるネームを拝見した後、最終的に原稿をいただきます。資料集めのため、一緒に名人戦を見に行ったりましたね。



安藤三四郎さん 宣伝広告
広告・原画展などの統括をしています。どうすれば発売日にコミックが売れるかを考え、新聞やテレビなどの媒体を使ってアイデアを形にします。「作品を世に広める」仕事です。



小澤龍太さん 制作
印刷所とのやり取り、紙の手配や進行管理などを行います。原稿があるタイミングについて編集の進行担当者や密に連絡できるように進める裏方スタッフです。

マンガ

羽海野チカ 著
『3月のライオン』
(白泉社)

How to make...

マンガ家と編集者の二人三脚で完成していく。

編集者との打ち合わせで決まったストーリーを、漫画家が原稿にする。その後、編集者がフキダシの中の文字を「写植」と呼ばれる方法で貼り、印刷会社が版下を作成して印刷、製本、納品。発売日に合わせて宣伝広告を出稿する。
●Staff: 漫画家、編集者、宣伝広告担当、制作、プロ棋士(棋譜監修)



東京の下町にひとり暮らし、17歳の将棋プロ棋士、桐山零。彼は幼いころ事故で家族を失い、深い孤独を抱えている。そんな零の前に現れた3姉妹。彼女たちと接するうちに、彼は失っていた何かを取り戻していく。



上/編集部の風景。下/リニューアルをきっかけに編集長のバトンを受けた北脇朝子さん。昔から雑誌好きで、雑誌をつくる人になりたかったそう。「ライフスタイルや街や店を楽しむ、行動する人たちのための雑誌になりたいと思っています」

「雑誌が読める雑誌ならいいけど。」
東銀座の街角にそびえる老舗の出版社マガジンハウス。関口隆介さん、葉山亮さん、千葉美幸さんの3人は、ここにある「Hanako」編集部を訪れた。「みんな、雑誌読んでますか？」
出迎えてくれた編集長である北脇さんのいきなりの質問に、学生たちは、はつきりと答えた。「読んでます！ Hanakoも好きです」
学内のフリーマガジンを制作している彼らは、雑誌編集の経験者。それゆえ、雑誌づくりに関する実践的な質問が次々と投げかけられた。
「1冊分の取材にどれぐらいの日数をかけるんですか？」
「取材拒否されることは？」
「たくさん取材したのにスペースが限られているときは？」

「読んでます！ Hanakoも好きです」
学内のフリーマガジンを制作している彼らは、雑誌編集の経験者。それゆえ、雑誌づくりに関する実践的な質問が次々と投げかけられた。
「1冊分の取材にどれぐらいの日数をかけるんですか？」
「取材拒否されることは？」
「たくさん取材したのにスペースが限られているときは？」

Hanako編集部



「読んでます！ Hanakoも好きです」
学内のフリーマガジンを制作している彼らは、雑誌編集の経験者。それゆえ、雑誌づくりに関する実践的な質問が次々と投げかけられた。
「1冊分の取材にどれぐらいの日数をかけるんですか？」
「取材拒否されることは？」
「たくさん取材したのにスペースが限られているときは？」

「読んでます！ Hanakoも好きです」
学内のフリーマガジンを制作している彼らは、雑誌編集の経験者。それゆえ、雑誌づくりに関する実践的な質問が次々と投げかけられた。
「1冊分の取材にどれぐらいの日数をかけるんですか？」
「取材拒否されることは？」
「たくさん取材したのにスペースが限られているときは？」

「読んでます！ Hanakoも好きです」
学内のフリーマガジンを制作している彼らは、雑誌編集の経験者。それゆえ、雑誌づくりに関する実践的な質問が次々と投げかけられた。
「1冊分の取材にどれぐらいの日数をかけるんですか？」
「取材拒否されることは？」
「たくさん取材したのにスペースが限られているときは？」

『Hanako』 (マガジンハウス)



情報はユニセックス
男の子にも楽しんでもらいたい
1988年、バブル期の最中に創刊され、OLのバイブルといわれた女性向け情報マガジン。3年前にリニューアルをし、世界観やライフスタイルを取り入れながら、OLのベシクを提案するという、やわらかいテイストが好評だ。7月に1000号記念号を発行。

- 1 関口隆介 Ryusuke Sekiguchi
文学部心理学科3年
- 2 葉山亮 Ryo Hayama
文学部社会学科3年
- 3 千葉美幸 Miyuki Chiba
外国語学部外国語学科2年

プロが働く、憧れの編集部。

フリーペーパー『TEIKYO PLUS』の学生編集部員たちが、憧れの編集部に伺い、本づくりの現場を肌で感じてきました。



『ノントンあそぼうよ』
シリーズ1〜21
キヨノサチコ 作・絵(偕成社)



いつまでも
子どもの気持ちを大切に

1976年に『ノントン ぶらんこのせて』が発売されて以来、現在まで21巻が刊行されている絵本シリーズ。いたずらっ子だけじゃなく行動する「ノントン」が主人公。ノントンの愛らしさは、世代を超えて愛され続けている。

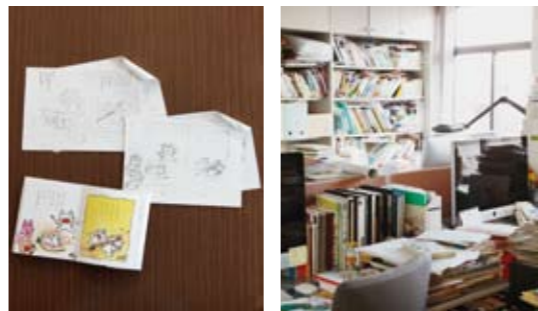
- 1 池浦薫 Kaoru Ikeura
経済学部経営学科2年
- 2 土方亜美 Ami Hijikata
外国語学部外国語学科2年

偕成社編集部

絵本づくりで大切なのは、作家と編集者の信頼関係。

誰もが子どものころから親しんでいた絵本「ノントン」シリーズ。今回編集部にお邪魔した池浦薫さんと土方亜美さんも、幼いころ病院や幼稚園などでノントンの絵本を読んだ記憶が残っていると話す。彼らを迎え入れてくれたのは、編集担当の千葉美香さんだ。

「このたび、スプーンたんたんたん」という新作を出版しました。作者のキヨノサチコさんは3年前に逝去されましたが、キヨノさんが生前、紙芝居用につくっていた原画とラフが見つかったのでそれを元に制作しました。今までは、ラフの段階から何度もキヨノさんとキャッチボール



右/編集部の風景。ここで絵本の制作が行われている。左/最初は絵も文章も手描きラフの状態。編集者とやり取りしながら固めていった後の本描きとなり、原画が完成される。

をしていたのに、今回はそれができなくてつらかったです。先生ならなんておっしゃるか、というのを、常に考えていました」
それは、キヨノさんと長きにわたりお付き合いしてきた千葉さんの中に「ノントン」とはこういうもの」という共通認識があったからこそできたこと。そんな信頼関係も、絵本づくりにおいては大切な要素なのだ。
「作家さんの描いたものがそのまま作品になると思っていたのですが、本当は何度もやり取りをしてやっとできあがるんですね」と土方さんも驚きを隠せない。また内容について、池浦さんが「教育的なことも考えられていたんですか？」と質問すると「キヨノさんは、しつけない概念とは遠いところいらした方。本を読んで、遊んで、楽しかった。という思いが残ればいいという気持ちで書いていらっしやいました」と千葉さん。学生ふたりの思い出の中にノントンが生きて続けていることを知ったら、きっとキヨノさんも喜ぶだろう。
「作者の方を支える編集者がいて、絵本はつくられているんですね」と池浦さんは目を輝かせた。関わる人の思いが作品に詰まっていることを実感し、ふたりとも「ますます絵本づくりに興味わいてきた」と嬉しそうに話してくれた。



江口宏志さん Hiroshi Eguchi
ブックセレクター

1972年生まれ。ブックショップ「UTRECHT/NOWDeA」代表。国内外のアーティストとのネットワークを生かした独自のセレクトを行っている。様々な本のある空間のディレクションも行う。ブックショップのディレクション「THE TOKYO ART BOOK FAIR」共同ディレクター。
<http://utrecht.jp> <http://zinesmate.org>

「NOW DeA」に併設されたセレクトブックショップ「ユトレヒト」。代表を務める江口宏志さんは、日本だけでなく、世界中にあるおもしろい本の目利きだ。アジア最大のアートブックフェアである「THE TOKYO ART BOOK FAIR」の主催者でもあり、最近の本の動向について教えてくれた。

「2011年に第3回を迎えたこのイベントにはおよそ160の出版社が参加しましたが、その中の100社はほぼ個人で本づくりをしている人たち。出展者は、毎年1.5倍くらいのペースで増えています。個人で本をつくる人が多くなったな、という実感がありますね」

ジンやリトルプレスが集まるこのフェアには、海外からもたくさんのお品物や来場者が足を運ぶ。江口さん自身、ニューヨークやベルリンのブックフェアに参加していることもあり、国境を越えた情報交換の場が自ずと作られていると話す。

「本を通じて表現する人の感覚は国という枠組みを越えて共通のものなんですよね」

さらに、紙という媒体にとどまらず、今では電子書籍で面白い制作を行うクリエイターも増えているという。

「iPadやiPhoneを使った絵本アプリを開発した会社が、一般の人たちにストーリーから絵まで作ってもらったコンテンツを行ってました。僕も審査員として呼んでもらったんですけど、すごく面白かったです。絵本を印刷して出版するのは大変ですが、ウェブで発信できるとなるとハードルが下がりますし、かなりクオリティの高いものも多く集まりました」

電子書籍といっても、今ある紙の本をデジタル化するだけではない。ウェブを起点に考えてつくればコストが抑えられ、音声や動画を入れることで新しい表現を生み出すこともできる。個人で発信するための選択肢が、ますます広がってきているといえよう。

E-Book

音声や動画によって新しい本のおもしろさを発見。

印刷物とは違い、電子機器のディスプレイを使って読む出版物のこと。スマートフォンやiPadなどのタブレット型コンピュータの普及により、小説などを電子化したり、ウェブで雑誌を発行したりする会社も多くなった。インターネットを通じてダウンロードした後に閲覧できるものと、オンラインで閲覧できるストリーミング型が存在する。印刷物では不可能だった音声や動画、振動などを併用したコンテンツも実現可能で、表現の幅が広いのが特長。またコストも削減できるため、個人で気軽に制作をするクリエイターも増えている。

Zine

自由につくることができるから無限大に広がる表現の幅。

ジンの語源は「マガジン」とも「ファンジン」ともいわれている。アメリカのカルチャーシーンで生まれ、最初は写真や絵、詩などを自由にレイアウトし、コピーしてホッチキスで留めたものを周りの人に配るような簡単なものだった。最近では様々な形態のジンが発行されているが、ジンそのものが自分の作品であり、表現の場所であるという意味合いは同じ。ジンを出す出版社も年々増えてきており、ひとりですつくるだけでなく「誰と一緒にジンをつくるか」ということに重きを置いている人も多い。

Little Press

小規模でつくるからこそ伝えられることがあります。

読んで字のごとく、プレス（印刷）がリトル（小規模）であるというだけで、作品のクオリティは商業誌などとほとんど変わらない。しかし、商業誌のように出版社がつくっているわけではなく、個人がひとりで、かなりマニアックな内容をテーマに、1冊をつくっていることが多い。「小規模だからこそ、つくり手の目が届くところに特定のテーマの作品が届けられる。それが、リトルプレスの特長ではないでしょうか」と江口さん。本屋だけでなく、雑貨屋やカフェなどに置かれることも珍しくない。

新しい本のかたち。

最近、これまでは少し異なる本が登場しているのをご存知ですか？
本をつくる方法はまだまだたくさんあるようです。



8 『かえるむしくんのはんぶんこ』
(汐留イノベーション)
広告代理店・電通と、慶応義塾大学のSFC研究所によるクリエイティブユニット「汐留イノベーション」が書き下ろしたウェブ絵本。電子書籍絵本アプリ「こえほん」をダウンロードすれば読むことができる。

7 『フィナム』
(ライ)
メインコンテンツが毎月1日に更新される、メンズファッション・ライフスタイルウェブマガジン。iPhoneアプリをダウンロードすれば、毎日更新のニュースやスナップも閲覧可能。いち早くトレンド情報を入手できる。

6 『FOTO.ZINE NR.4』
(4478zine)
オランダのフォトグラファー「Erik van der Weijde」が「好きなアーティストと一緒に本をつくる」ことを目的に、5名のフォトグラファーとコラボレーションしたジンシリーズ。全5冊セット。

5 『ポケットに山を』
(野川かさね+高橋亜弥子)
写真家、野川さんと編集者、高橋さんの作品。彼女が撮る山や自然の写真に、版画家・畦地梅太郎や作家・串田孫一などの言葉が呼応する。実際に出版すると大変な写真集も、ジンという形であればつくりやすい。

4 『iii 1~9』
(小林エリカ+スワキタトシ)
作家の小林さんが、岡山県倉敷市周辺で出会った人たちの記憶をスワキさんと共にコミックにした9巻組のジン。かわいらしいミシン製本で、糸の色もすべて違うというこだわり。全巻揃えると、ひとつの絵になる。

3 『SUMMER CAMP MEMORIES in the box』
(kvina)
女性クリエイター4人(小林エリカ、田部井美奈、野川かさね、前田ひさえ)が集うアトリエ「kvina」。彼女たちがハケ岳にて展覧会を行ったときにつくられたメモリーボックス。現地で摘んだ花が入っているものは、限定20ボックス。

2 『mürren』
(murren編集部/若菜晃子)
「街と山の間」にある、身近な自然をテーマにした小冊子。半年に一回ほどのペースで出版される。本格的に自然を愛するというより、若菜さんが興味を持つ動植物の特集などがメイン。彼女独自の感性で溢れた本。

1 『Sweet Dreams』
(スウィートドリームス/福田教雄)
音楽誌の編集に携わってきた福田さんが2007年に創刊。彼が好きなミュージシャンを取り上げ、ほぼひとりで制作している。ミュージシャンとやり取りしたメールの記録やツアー同行時のエピソードなど、内容もパーソナル。

Good Fellows.

やっぱり
仲間が、
一番です



帝京大学ライフセービング同好会
Teikyo Univ.
LIFESAVING CLUB

2010年立ち上げ。メンバー数18名。週に1度プール、月に1度海で合同練習を実施。夏休み中は、関東近郊の浜で監視活動を行う。同好会から脱して部に昇格すべく、海・プールで行われる大会にて入賞をめざす。

ライフセービングを続けていきたい。ひとつの目標のもと、各大学や社会人の垣根なく一致団結して活動できるのも醍醐味のひとつだという。

日本ライフセービング協会が掲げる今年のテーマは「誇り高き命を繋ぐ」。年に数回行われるライフセービングの大会では、海であればボードレスキューやビーチフラッグス、プールであれば事故を想定して動く競技やリレーなどが行われる。「海で行われるリレーではスイム、ボード、サーフスキー、ランをチームで繋ぎます。このリレーを見ていると改めて「ゴールの先に救うべき命がある」と実感するんです」と、会長の原珠介さん。

「競技のナンバーワンは、レスキューのナンバーワン」といわれるように、競技で結果を残せる選手は優秀なライフセーバーと認められる。それだけ、実際の救助を基に考えられた競技なのだ。トレーニングは厳しい。しかし自己鍛錬が人命救助に繋がるからこそ、やりがいも苦労を上回る。皆、口を揃えて「練習は辛い」と答える理由は、そこにあるのだ。

ライフセーバーの監視活動は、年間を通して行われている。ライフセービング同好会のメンバーも、それぞれが選んだ海岸のクラブに所属し、浜の監視に入るのである。「その年の海水浴客の方々が安全に楽しんでくられて無事故で終われば、それが一番嬉しいことです」と話すのは2年生の菅根千恵さん。年間を通してプールで泳ぎ込んだり、海で器材を使って訓練を繰り返したりするのはすべて海水浴客の方々の安全のためだ。副主将の長谷川昂秀さん曰く「浜には社会人ライフセーバーも多く、様々な人との出会いから学ぶこともあるんです。これらをもたくさん海に行って色々なものを吸収して、卒業後もずっと

ITABASHI CAMPUS LIFESAVING

ライフセーバーの使命は、溺者を救出することではなく溺者を出さないために監視活動すること。それでも万が一のことを想定して、年間を通して泳ぎ込み、レスキューの訓練をし続ける。肉体を鍛え、技術を磨くことが人のためになる尊い活動なのだ。

What's Up?

いま、
何やっ
てる？

五味博子さん
医学博士
帝京大学医学部 83 年卒。帝京大学医学部附属病院第一内科を経て、現在帝京大学ちば総合医療センター非常勤講師として皮膚科、内科で診療。五味クリニック院長。



Hiroko Gomi

患者さんの余生は、
家族と過ごす穏やかな
時間であってほしい。



「今まで元気だった高齢の方が、病気で入院して自覚めると見覚えのない病室にいる。すると、ここはどこだ、という驚きから、精神的に追い込まれて叫んだり徘徊したりすることがあるんです。でも在宅医療に切り替えたあとに様子を見しに行くくと、別人のように明るい表情を見せる患者さんに会えるんですよ」

「今まで元気だった高齢の方が、病気で入院して自覚めると見覚えのない病室にいる。すると、ここはどこだ、という驚きから、精神的に追い込まれて叫んだり徘徊したりすることがあるんです。でも在宅医療に切り替えたあとに様子を見しに行くくと、別人のように明るい表情を見せる患者さんに会えるんですよ」

Surprise Us.

先生が、
教えてく
れるコト

Masashi Asahina

研究には、誰も知らないことを
最初に発見する楽しさがある。

「元々は植物の『形』に興味があったんです」と話す、バイオサイエンス学科の朝比奈雅志先生。大学時代は、海洋性の植物プランクトンである「円石藻」の、うろこをたくさんまとった形状に魅了された。形の面白さや美しさよりも「なぜこのような形になるのだろう？」という興味の方が強かったという。「今は植物についた傷が治る過程について研究していますが、これも植物の『形』の変化を見るという点では同じですね」と朝比奈先生は微笑む。

これは植物を健全に育てるための「接ぎ木」にも応用できる研究だが、ひとくちに傷が治る過程といっても植物によって様々だ。どんな刃物でどのように切るのか、どのように治っていくのかも異なるため、突き詰めようとするればキリがない。それでも朝比奈先生は「世界中で誰も知らないことに着手し、解明していくことに楽しさを感じる」と研究の醍醐味について話す。これまでわからなかったことが解明した瞬間に立ち会えるのは、紛れもない研究者本人だからである。

「研究していると何でも知っていると思われがちですが、とんでもない。科学が進歩するたび、新たにわからないことが増えてくるんですよ。だから、一生現役でいたいと思うんです」

植物の傷の再生は、朝比奈先生が大学院時代に立ち上げたテーマである。ゼロからのスタートゆえに、最初は手探り状態だった。しかし成功すれば、その道の第一人者になれるという魅力を秘めた世界である。「学生たちにも『まさか!』と私を唸らせるくらいの発見をしてもらえたら嬉しいです」。教え子がライバルになれば、先生の探究心にもまた火がつくことだろう。

朝比奈雅志 助教
帝京大学理工学部バイオサイエンス学科
筑波大学大学院博士課程修了。筑波大学、理化学研究所を経て、オレゴン州立大学へ。帰国後、筑波大学・遺伝子実験センター研究員。2009年より現職。



ART

「今まで見たアート作品の中で、一番の衝撃でした」

推薦人 医学部医学科2年 落合悟さん



▲「スノー」吉岡徳仁

『Newsweek』誌で「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれた吉岡徳仁氏による雪のインスタレーション。形が崩れながらも手のひらに舞い降りた瞬間に消えてしまう「雪」を羽毛で表現した。

**ダイナミックな作品に、
「圧巻」の一言。**

将来、「小児科医になりたい」という確固たる夢を持つ落合さん。その実現のために目下勉強中だが、オフの日や時間があるときは、ふらっと街に出てウィンドウディスプレイを見たり、美術館に行ったり…クリエイティブなものに触れることが一番のリフレッシュだという。「一人で美術館にもよく行きます。自分にはない発想に刺激を受けたり、いつも新しい発見があるんです」

そんな落合さんが衝撃を受けたのは、海外でも高い評価を受けているデザイナー、吉岡徳仁の「スノー」。全長約15メートルに及ぶ透明で巨大な空間の中心を、大量の羽毛が舞い、まるで雪が降っているかのように見える作品だ。「スケールの大きさに圧倒されました。こういう表現の仕方もあるんだって。ずっと見ていたくなるような不思議な空間でした」

最近「物事を多角的に考えられる人に憧れる」と話す落合さん。「たくさんの人に出会ったりいろいろ考えるに触れて、自分の視野を広げていきたいです」

全国にある帝京大学のキャンパスで学生生活を送るみなさんに、友だちにもすすめたい、お気に入りのひとつ、聞かせてもらいました。お気に入りの場所や映画、音楽や本。そこには、それぞれの思い出と、大学生活の現在がいっぱい詰まっています。

MUSIC

「いい曲がいっぱいあるので、みんなに聴いてほしい」

推薦人 福岡医療技術学部理学療法学科2年 木下涼さん



▲「LUCY LOVE」Noa (ハドソン¥2,100)

仙台を拠点に活動しているシンガー、Noaの1stアルバム。自身が綴った歌詞は等身大の女の子の気持ちをストレートに表現し、多くの人々の共感を呼んでいる。

青春時代の思い出が詰まった大切なアルバム。

普段から、J-POP、R&B、HIP HOPなどさまざまなジャンルの音楽を聴くという木下さんが、ぜひ聴いてほしいと一押しするのは、同世代の女性の気持ちを代弁するアーティストとして人気急上昇中のシンガー、Noaのアルバム「LUCY LOVE」。高校生のときに友だちに薦められて聴いてみたところ、「透明感のある歌声と耳にすっと入ってくるメロディーが好き」で、それ以来ファンになったのだという。

アルバムの曲は「全部いい」けれど、中でも好きなのは、「信じてる」という曲。ストレートな歌詞に、つつい自分のことを重ね合わせて聴いてしまう。「楽しかったこともいい思い出も全て、この曲に詰まっています。カラオケでぜひ、女の子に歌ってほしいですね」

2年生になり、「遊びも勉強も本気で取り組みたい」と話す木下さん。「旅行にも行ってみたい」と、Noaのライブにも行ってみたいと、これからの大学生活でやりたいことはたくさんある。これから先この曲と共に、たくさんの思い出ができるに違いない。

Our Recommend!

み	ん	な	の	、
カ	ル	チ	ャ	ー

「いつか結婚したら、こんな風になれたらいいな」

推薦人 文学部心理学科3年 中山のはらさん



▲「今度は愛妻家」(発売・販売元/アミューズソフト¥3,990)



©2010「今度は愛妻家」製作委員会

▲「今度は愛妻家」

愛して結婚したはずなのに、穏やかで楽しかった夫婦生活は、どこでどうなってしまったのか…？結婚10年目にしてある局面を迎えた夫婦の愛情を、時にコミカルに時に切なく描く。

素直な気持ちを相手に伝えてますか？

中山さんのおすすめは、映画『今度は愛妻家』。「世界の中心で、愛をさけぶ」などのヒット作を手がけた行定勲監督による、切ない夫婦愛を描いた大人のラブストーリーだ。

結婚して10年。かつては売れっ子カメラマンだったが今ではブローカー同然の夫・俊介(豊川悦司)と、健康マニアで気立ての良い妻・さくら(薬師丸ひろ子)。あるとき俊介は、友だちと旅行に行く直前のさくらに別れを切り出されてしまう。その

後、旅行に行ったさくらからはなかなか戻らず、最初は独身気分を満喫していた俊介だったが…。

「終盤の思いがけない展開に、泣いてしまった」と中山さん。「側について大切な人と分かっていても、それが当たり前すぎて無愛想になっていた人に、感謝の言葉を伝えたいくなります。男性にもぜひ観てほしい」

大学では放送研究会に所属し、自分で映像を撮るようになってからは「カメラワークも気にするようになった」のだとか。「行定監督が撮る、柔らかなトーン映像も好き。見た後に優しい気持ちになりますよ」

「生々しい描写に、強い衝撃を受けました」

推薦人 薬学部薬学科1年 竹田新さん



▲「手紙」東野圭吾 (文春文庫 ¥660)

人の絆とは何か。いつか罪は償えるのだろうか。犯罪被害者の家族を真正面から描き切り、感動を呼んだ不朽の名作。2006年には映画化され、話題を集めた。

次の展開が気になって一気に読んだ。

竹田さんが、「小説の面白さを教えてくれた」と絶賛するのは、東野圭吾の「手紙」。本格推理や学園ミステリーなどで人気を集める東野圭吾作品の中で、犯罪被害者の家族をテーマに真正面から描かれた作品だ。

主人公直貴の兄・剛志は、弟を思う一心から盗みに入った屋敷で、思いもかけず人をあやめてしまう。判決は、懲役15年。以来、直貴のもとへ月に1度、獄中から手紙を送る剛志。一方で、進学、恋人、就職と、つか

もうとした人生すべてが「強盗殺人犯の弟」というレッテルによって、その手をすり抜けていく直貴。日を追うごとに、剛志からの手紙は無視され、やがて…。

「登場人物の気持ちの変化とか、細かい心理描写が面白い。もし自分だったら…と想像しながら読みました」と竹田さん。この本を読んで、世の中のニュースの見方も少し変わったという。「事件の表面的な部分だけではなく、加害者やその家族の心理など、いろいろな人の気持ちを考えていけるようになりました。様々なきっかけを与えてくれる一冊です」

MOVIE

BOOK

第8回 Flair Workshopレポート

オリジナルデザインのTシャツをつくろう!

普段着ているTシャツをオリジナルのデザインで、
しかも自分の手で刷れるとしたら?
そんなハンドメイドの楽しさを学びました。



RESTAURANTさん、シルクスクリーンって何ですか?

「今はもっと丈夫な布を使っていますが、もともとはシルクの布を使って印刷する技術だったので、シルクスクリーンと呼ばれています。Tシャツやその他の布地、紙など、基本的に平面のものならほとんど印刷が可能です。工程は、まず感光剤を塗ったシルクスクリーンに、デザインを合わせて特殊な光を当てます。するとデザイン部分が感光され、版が出来上がります。インクを詰めるとデザイン部分のみインクが入り、対象物に印刷することができるようになります」

Teacher RESTAURANT

竹村卓さんと笹川龍一さんの2人で設立したデザインチーム。現在、BEAMS-Tなどでオリジナルブランドの手刷りTシャツを販売中。

How to make a silkscreen



版下原稿と感光剤が塗られたスクリーンを用意する。

特殊な光を当てスクリーンを感光させて版を作る。

できた版にインクを詰めて刷る。

オリジナルTシャツの完成!

「シルクスクリーンって、そもそもどんなものかわかる?」今回の先生であるデザインチーム、レストランの竹村さんからの投げかけに対し、「印刷技術のひとつとしか」と答える遠藤くん。「シルクで刷る」ということがどういう作業なのか、漠然としたイメージしかわいてこない。「みんなが着ているTシャツのプリントもそうです」という説明で、雰囲気は掴めたようだ。今回は、一枚一枚手で印刷する技術をみんなが楽しみながら学んでいた。

参加学生たちからあらかじめ希望のデザインを募り、レストランのふたりが元となる「版」を制作してくれた。まずは全体のデザイン画を描いてみる。どんなサイズになるか? どんな色になるか? どう絵柄や文字を重ねるか? これを考えるのが一番楽しくて、一番重要だ。

自分が普段着たり使ったりする身近なものをオリジナルのデザインで作れるというだけあって、みんな一生懸命。でも、慣れていない学生たちにとって、完成図を想像することは難しい。「え、その色とその色を混ぜるの?」とビックリするレストランの笹川さんに、「できてません!」と苦笑いの杉田くん。

自らの手でTシャツを刷ることができる。

モバイルにも
みんなの感想を掲載!

フレアモバイルでは、毎回 Flair ワークショップの内容を紹介しています。誌面で触れられなかった、今回参加した学生の率直な感想やコメントが写真と一緒に掲載。ほかにも、これまで掲載した Flair ワークショップの内容や、今後の Flair ワークショップ開催の応募も受け付けています。時間があるときに、ぜひチェックしてみてください。

今回参加した学生の
感想はこちら



Next Workshop

第9回開催予告
SUNSET CANDLE
のKUNIさんとキャンドル
づくりをしよう!

飲食店やパーティの演出、野外フェスやライブステージなどでキャンドルデコレーションを行っているサンセットキャンドルのKUNIさんを講師に迎え、キャンドルづくりに挑戦します。様々な形や色、グラデーションでオリジナルキャンドルを。



クニさん
SUNSET CANDLE

旅や波乗りから得たインスピレーションを表現したいと、身の回りの物をハンドメイドしているうちにキャンドルづくりに夢中に。「人と人」「人と空間」を繋ぐコミュニケーションツールとして、たくさんの場でキャンドルを灯している。

●開催日
2011.10.29(SAT)

●応募の仕方
ワークショップへの応募は、下のQRコードから。空メール送信後、(flairworkshop@flair-t.com宛)応募フォームにて申込みができます。応募者多数の場合は抽選となりますのでご了承ください。



※ドメイン指定受信・拒否等の設定を行っている場合は、flairworkshop@flair-t.comからの電子メールを受信可能な状態に設定してください。



今回参加した学生は、左から荒井加奈子さん(医療技術学部視能矯正学科1年)、花鳥仙恵さん(医療技術学部視能矯正学科1年)、遠藤裕希さん(経済学部経済学科3年)、杉田佑馬さん(経済学部経済学科3年)。

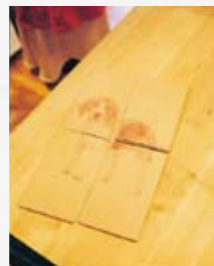
5 完成!!

完成したそれぞれのグッズを手に持ってパチパチ。思い通りのもの、ちょっと失敗したもの、どちらも自分の手で作った貴重な一品ものです。



左/荒井さんのバッグにはフランス語でTour Eiffel montee (エッフェル塔に登りたい)。右/花鳥さんもフランス語でJ'adore le chocolat (チョコレート大好き)。

初めての共同作業。
4人でひとつの手帳を刷りました。



番外編として、4つのノートと並べひとつの版で刷ることに。選ばれたデザインは犬。それぞれが1冊ずつ持ち帰り、4人が揃わないと「犬の絵」が完成しない。RESTAURANTさんとしても初めての試みということでしたが、かわいい犬が刷れました。脚の部分は、誰?

先生、いかがでしたか?

最初は手間取っていたけど、だんだん要領がわかってきたようで、最後の方はみんな積極的に動いていましたね。型にはまらないアイデアやデザインが斬新でした。「手作業だと思った通りにいかない」という偶然性を楽しんでもらえたと思います。



実際に「刷る」作業をやってみましょう。

1 デザインを考える。

完成品を左右する重要な工程。実際にデザイン画とTシャツなどを合わせながら、イメージを紙に描いて固めていきます。



実際に使ったデザインの原画。これをもとにして、版をつくりあげます。

紙に描いて思いついたデザインをまとめていきます。センスを要する作業です。

2 乾かす。

刷り上がったTシャツを乾かします。ドライヤーを使えば時間も短縮。表面が乾いたらOK。一版出来上がりです!



自分が刷ったインクをじっくりとドライヤーで乾かすときは感慨深い。

3 色をつくる。

30色近い数のインクから、イメージに合った色を作ります。そのまま使っても良いし、混ぜても良い。意外とたくさんのインクを使います。



カラフルなインクを混ぜて色を作るのは、それだけで楽しい。

4 刷る。

シルクスクリーンの花形工程。インクを使って、Tシャツに刷っていきます。技術的に難しいのはここだけです。



スクイージーで下に入力しながら、一気に手前に引きます。角度がポイントです。

印刷範囲の横幅を見ながら、デザインの上部にインクを均等に乗せます。

とうとう最初のひと刷り、緊張の瞬間!ここからは修正が利かないだけに、みんなのドキドキも高まる。一番バツターの杉田くんが刷ったシルクスクリーンの上げてTシャツを見てみると、周りで見ていた全員から「オーッ」と歓声があがる。なんとかうまくいったよっだ。

それから1枚のTシャツに何版も重ねて刷ったり、トートバッグにも刷ったりしていくうちに、スクイージーと呼ばれるインクをシルクの版に染み込ませる器具の使い方も慣れてきた学生たち。その力加減と角度さえマスターしてしまえば、他にそんなに難しい作業はないのだ。

むしろ、手刷りのシルクスクリーンは、刷ってみたいとわかない面白さがある。思った色が出なかったり、すこしズレてしまったり。でも、そういう偶発的なミスや事故も楽しみのひとつなのだ。みんな、最初に思っていたものから作業を続けていくなかで、途中で色を変えたり、人のデザインを借りたり、グラデーションにチャレンジしたりして、自由にアドリブでデザインを変えていった。

柔軟性と偶然性を取り入れて、世界に1つだけ、ハンドメイドのオリジナルグッズが出来上がった。既製品とはまた違う、あたたかみのある出来栄に、みんな大きな達成感を感じていたようだ。

QUESTION

ニキビの原因は何ですか？

思春期に症状が出る「ニキビ」は、「青春のシンボル」といわれるほど身近なもの。「たかが「ニキビ」と考えてしまいがちですが、病院で然るべき処置をもらうことで、症状を軽くすることができます。症状がひどい人は、まずは病院で診察を受けましょう。

ANSWER

皮脂の過剰な分泌と、毛穴の詰まりによってニキビができます。メイクやストレスによっても症状が悪化します。

どんな人がニキビになりやすいんですか？

Dr.: 年齢的には、中学・高校生〜20代半ばくらいの人が多いです。やはり思春期の人に多い症状なんです。皮脂が過剰に分泌されると毛穴が詰まり、ニキビになりやすいことがわかっています。皮脂とは、毛の脂線から出る油分。皮脂が皮膚の表面を覆うことで、肌がつっとり潤います。また、健康な肌にはターンオーバーといって、古くなった角質を体の外に排出する働きがあります。ところがニキビになりやすい人は、古くなった角質が排出されずに毛穴をふさぎ、過剰な皮脂が毛穴に詰まってしまうのです。

どうして毛穴に皮脂が詰まるのでしょうか？

Dr.: 毛穴は大きく3種類に分類されます。産毛が生える「軟毛性毛包」、髪の毛などが生える「終毛性毛包」、そして皮脂をつくる役目をもつ「脂線性毛包」の3つです。このうち最後の脂線性毛包が、ニキビのできる毛穴なのです。脂線性毛包は顔と胸元と背中にあるので、ニキビがその箇所にできるのはそういった理由です。一見、毛穴の汚れは洗顔すればとれると思いがちですが、皮膚表面の汚れはとれても、毛穴は長いので、奥の汚れまではなかなかとれないのが実情です。だから皮脂が詰まってしまうのです。

どんな対処・予防法がありますか？

Dr.: 分泌される皮脂を増やさないことが先決ですが、皮脂が分泌される量に最も大きく影響するのは、実はホルモンバランスなんです。男性ホルモンの分泌が活発になると、皮脂の分泌量が増えるのです。とは言え、ホルモンバランスを自分でコントロールすることはできませんから、ニキビがひどくなったら病院に行くのがよいでしょう。近年、「レチノイド」という、毛穴の角質をはがし、皮脂の分泌を抑える外用薬が認可されましたので、医師の指導のもとできちんと使えば、かなりの効果があると思います。あとは、日常生活面での予防ですね。バラ

ところで先生の休日の過ごし方は？

Dr.: 最近忙しくてあまり休めていませんが、趣味はゴルフです。ゴルフのときは、必ずサンスクリーン剤を塗って紫外線から身を守っていますよ。紫外線が肌の天敵ですから、みなさんにも気をつけていただきたいです。



渡辺晋一教授 Shinichi Watanabe 帝京大学医学部皮膚科主任教授 東京大学医学部卒。同大学同学部皮膚科入局後、同医局長。米国ハーバード大学マサチューセッツ総合病院皮膚科リサーチ・フェローを経て、1988年に帝京大学医学部皮膚科助教授。1998年より現職。

Notice Board.

大学からのお知らせです

Championship

チアリーディング部 関東学生選手権大会で初優勝

去る6月4日(土)、5日(日)、代々木第一体育館で第13回関東チアリーディング選手権(兼日本チアリーディング選手権地区予選)が開催され、本学チアリーディング部が大学の部 Division1で初優勝、Division2でも第1位および第3位の成績をおさめた。

Award

空手道部 全日本学生空手道選手権大会で活躍

去る7月4日(月)、日本武道館にて第55回全日本学生空手道選手権大会が開催され、女子個人組手で小林実希選手が優勝、植草歩選手が準優勝したほか、女子個人形で小林実希選手が3位、男子個人組手で渡邊大輔選手が3位、男子個人形で杉野拓海選手が準優勝をおさめた。

Award

女子柔道部 全日本ジュニア選手権に2名出場決定

去る7月2日(土)、東京武道館で平成23年度東京都ジュニア柔道体重別選手権大会が開催され、63kg級で優勝した若林果那選手と52kg級で準優勝した玉木聖子選手が、9月10日(土)、11日(日)に行われる全日本ジュニア柔道体重別選手権への出場権を獲得した。

Award

駅伝競走部 全日本大学駅伝関東予選大会を第2位で通過

去る6月25日(土)、国立競技場にて第43回全日本大学駅伝対校選手権大会の関東予選大会が開催され、本学駅伝競走部は出場20校中2位と優秀な成績をおさめた。11月6日(日)に名古屋の熱田神宮〜伊勢神宮にて行われる本戦での活躍にも期待したい。

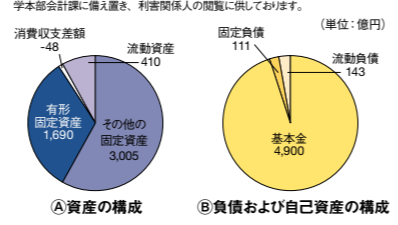
Accounting Report

平成22年度の会計をご報告します

Table with financial data for平成23年3月31日, including assets, liabilities, and equity sections.

Table with financial ratios (主要財務指標) such as fixed asset ratio, current ratio, and debt ratio.

③⑤は高い値が良い比率、①②④は低い値が良い比率
1. 施設を充実させるため、設備投資を毎年積極的に行っています。最近の大規模設備投資は【板橋新本館】20年度竣工【板橋新校舎】23年度竣工予定(建設中)
2. 負債額の大きな増減はありません。
3. 教育・研究等の諸活動に不可欠な資産を充実するため、計画的な基本金の増入れを実施しています。
4. 財務内容の健全性確保に努め、引続き良好な水準を維持しています。
(1) 固定比率(=固定資産/自己資金)は96.8%と100%を下回っており、固定資産はすべて自己資金で賄われています。
(2) 有形固定資産構成比率(=有形固定資産/総資産)は、学校法人においては多額の施設設備投資により高くなりがちですが、本学の比率は33.1%と低い値です。
(3) 流動比率(=流動資産/流動負債)は287.5%ですが、一般に200%以上であれば優良とみなされます。
(4) 負債比率(=総負債/自己資金)は5.2%と低い値を維持しています。なお、借入金の残高はありません。
(5) 自己資金構成比率(=自己資金/総資金)は95.0%と高く、財政的に安定しています。
なお、平成22年度の財務情報は、私立学校法第47条の規定に基づいて帝京大学本部会計課に備え置き、利害関係人の閲覧に供しております。



Editor's Note

今号の表紙、なんだかわかりましたか？ほとんどの人が目にしたことがあるであろう、絵本の「ノンタン」、しかもそのノンタンの原画です。ノンタンシリーズを発行している偕成社さんへ取材に伺った際に見せていただいたものですが、作者キヨノサチコさんの手描きラフなどもあわせて拝見すると、幼い頃にはひとつの完成品(本)としてしか見ていなかったノンタンが、いろいろな人の手でつくられた「作品」であったことに改めて気づかされ、感慨深い気持ちになりました。ふだんなにげなく読んでいる本や雑誌でも、つくられる過程を想像するとまた違った角度から本に興味がわいてきますね。この秋は本を「読む」だけでなく、ジンやE-bookなどで本を「つくって」みるのもいいかも…？！

See You Next Issue!! 11年12月10日 Vol.84配布予定

Staff Credit

Table listing staff members and their roles: Produce (Mo-Green Co.,Ltd.), Planner (須藤 亮), Illustrator (Shu-Thang Grafix), Photographer (阿部 健), Editor (赤堀雅子), Art Director (武田昌也), Designer (都築 陽), Publisher (帝京大学本部).

Flair 発行月: 2011年9月(年4回発行) 発行: 帝京大学本部大学PR推進室 〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 TEL 03-3964-4162 FAX 03-3964-9189 E-mail: post@med.teikyo-u.ac.jp URL: http://www.feelteikyo.com/flair